夕刊
磐城新聞
三月二十一日發行
定價一部金五錢（郵稅拾五錢）
一ケ月金六錢
廣告料金　一段一行金拾錢　同段二行金九拾錢　五段十二字詰一行金六拾錢
電話　磐城新聞社　木一四
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

青い灯

七

八幡秋月

『アノ、家へ行つたもので逃れるための出鱈目にすぎすから！』

耕一は嘲つけと云はんばかりにニヤリとして

『何處の家へ？』

何と言ふ卑劣な口の聞く男だらう、しかも斯んなに大勢他人の居る處で……と想ふとあや子は急に不快になつて口をつぐんで仕舞つた。

あや子の顏色を素早く讀んだ耕一はやゝ慌てて

『まア、いゝさ、何處だつて、そんな事』と急にあや子の機嫌をとる樣に『だけど一寸、つき合つて呉れないかあやちやんに是非紹介したいと想ふ友達もあるんだから』

あや子は一寸と下目に耕一をみたがすぐ目を伏せて

『アノ、折角ですけど今日は急ぎますから……』

『まア、いゝぢやないか暇はとらせんから』

『え、折角ですけど！』

あや子は早く耕一から離れたかつた

『そう言はんで、一寸だから』

執拗な耕一は容易に離そうとしなかつた

玲子は何故あや子が判限言ふ、チと穩當を缺く言葉りと斷らないのかと、それが歯がゆく想つとつたが、とう〳〵堪り兼ねてワザと耕一に浴びせる樣に

『あや子さん、遲くなりますから、あたし先に參りますわ』

勿論あや子達二人は是れから店に歸つてゆくばかりだつたから、そう急く必要はなかつたのだ

急ぐといふのは耕一から逃れるための出鱈目にすぎなかつたのだ

あや子は玲子が自分に調子を合せて呉れた事を心の中に感謝しながら

『ほんとうに失禮ですけど此處で御免下さいませ』

二人は尙も引止める耕一の手を無理に切つて外に出た

外は師走の空から薄日が出て居つたが、直ぐ曇つて

×

何事でも、そうであるが『一將功成り、萬骨枯る』とは

はあや子を諦められなかつが得戀に微笑み、力強い抱擁に恍惚として甘い御園に夢みる時、幾人かの異性は失望の野にのたうち廻つてるのだ。

まして浮氣な酒場の女達の戀愛には浮氣な男達が幾人失戀の苦杯をなめてる事か？。

處で祐二達が熱き口づけに醉ひ、あや子の胸は甘き戀の嘆にあやしく亂れてる時、耕一は滿されぬ心を押へて毎夜タイガーに通つた。

祐二とあや子の關係は今では店でも公然たるものであつたから、從つて耕一の耳にも響いてはゐたが耕一はあや子を諦められなかつ

大學通釋

○嫉視するが如き小人物に對しては唯仁人のみがよく之を退けて西方の夷狄の方に行かしめ道德を以て則とする中國には生息せしめない事が出來るのである、だから仁人はよく好むべき人を好み惡むべき人を惡みて決して惡つた處置をしない……

新歌壇

小山田滋選

山中盛一

○四ひの氣に溢れるゝ子等をみて、ひねもす遊ぶ心安さ

○村端のくぬぎ林の中にある、隔離病舍に殘る淡雪

飯村長四郎

○正午近う雨あがるらし枕邊の、障子はややに明かるくなりけり（病臥）

○息きれて苦るしき夜更け遠き寺の寒行の大こしきりになりくる

○その病癒えなば來よと信濃なる兄のたよりのうれしき朝なり

御齋所峠にて

古川哲夫

やま路！

清、流！

御齋所越七里の路は鮫川と離れゝ西へ！

早春とは云へ四圍の山々は未だ雪を殘し、鮫の清流はセゝラギの音を立てゝ東南へと走るところ、御齋所の眺めは旅人の心を引く、彼方此方の山間に立ち昇る煙そは里人達の炭たく煙か音もなく中空へ〳〵と靜かに去る！

山はくらいが

炭たき小屋の

君が想ひの

灯がひかる

別れ悲しき

御齋所峠

風が靜かに、

泣かす想ひよ

細いひかりは

炭たき小屋の

君の面影

燃えでひかるよ

見れば涼しい

みやまの雪よ

解けて身にしむ

乙女心よ

（終り）

春

市川健次

雨晴れの土

ほかほかと

桃の花ざかり

樣で本よむ

爺さま

鐵ぶちの眼鏡

桃の木に

つるした龍の

雲雀もなくよ

もうお寂かな

どこまでも

明るい陽ざしだ。

日21月3

△弘法大師入寂（承和二）△畿ヶ嶽の激戰（天正一一）△高山線開通、飛彈の國に始めて汽車通ず（昭和三）△下元○國宇品へ凱旋す（同七）

〔社會の今日〕

○想思樹の影の搖ぎや春の月

小波

燈臺に友訪ひて若布賣ひけり

竹洞

俳句を募る

越後俳句倶樂部では當地の同好雅友と風交の機會を作るため目下左の清規に依り句を募拭いて投吟して欲しいと

題春冬季雜▲選者東京前田啞蟬氏▲一等置時計二等目醒時計三等銀メダル秀逸七吟參拾錢宛▲開卷はどうなつても構ひませぬ紙は入吟者全部に贈呈二組以上入吟者には俳句集俳句雜誌短冊色紙萬年筆多數抽籤で當籤者に頒つ▲締切期日三月末日入花料三句一組拾仙、餘りも同樣▲成るべく爲替切手代用二割增▲投吟所越後長岡市殿町三丁目六三七の甲『越後俳句倶樂部』▲照會は往復ハガキ

講談　お蘭陀お蝶

（280）

渡邊默禪作

布施長春畫

『あれ、姐さん、一寸待つてください』

座敷でお秋婆さんの介抱をうけてゐたお蝶は、と見てむつくと起揚りながら顏がるやうに廊下先へ出て來てお菊の後から突とその袖に縋つた

『暫くお待ちなすつてお呉んなさい、モシ姐さん』

『何だとい、待てッ？此の矢先に私を止めて如何する氣だ』

お菊は睨むやうに顏を看下した

『はい、そ、それ程までに私をひいきにして、立引いてお呉んなさる思召は誠にお蝶はほろりと落る涙を

『姐さんのお身に若しもの間違でも出來ますと、わ、私はいかい御恩になりました親分に對して合せる顏がございません、私の体なぞ緣喜な涙一つこぼすやうな平太郎分ちやアないから些とも心配するこたアない、

お菊はせき込んで

『此の儘に濟まして呉れなんて、そりや先で言ふ文句もやないか、散ゝ恥をかゝされて紋に極印まで打たれた御本人が仇敵の名代になつて詫をいふとは、餘程莫迦かしてるよ、確乎おしよ戲談ぢやない、おいお前は私の家に來てから何年になるとお思ひだえ、今までの中にソレ喧嘩だ、ソレ斬合だと血腥い爭鬪騷ぎを何遍ともなく見慣れ聞慣れ、長脇差の危ない稼業も男の意氣地、恁うと言出したから薄いて出たのに、姐さんはにやア一寸も後へは引かぬ親分や私の氣性をよつく呑込んでおゐでぢやないかえ

それを飽くまで承知しながら今日に限つて止立するとは大きな釜で炊出した兵量飯のお餘りを、手掴みにして食つたお前にも似合ないや斬薬は覺悟の上で飛込むのだ、そんなことを氣遣つてゐた日にやア片時だつて賭博打を亭主に持つちやアゐられやしないよ、私が殺られたら、莞然笑つてよく死んだと悅びこそすれ不

にびくついて尻込してゐら

二人の乾分も大氣焰だ

『いえ、その御氣性や家風をよく存じて居ればこそ、私がお止め申すのでございます』

『おや、如何してね』

『元來事のおこりは私から影の人でございます、自分が仕出來したことなら、自分で始末をつけるのが當然ですのに、力に餘つて影のお人を味方に賴み、しかへしをして貰つたとあつては假初にも親分のしつけを戴いた此の蝶の恥ですし、又た御世話をして下すつた親分や姐さんの名折にもなります』

『おや、强いことをお言ひだねえ、ちやアお前一人で此の復讐が出來るのかえ』

『はい——屹度怨を酬つてやります』

ラヂオ

……二十一日（火曜）……

仙臺　JOHK

△前七、〇〇　佛敎講座（六法禮經）古義貞吉宗高野山布敎師權中僧正壽山良海

△七、五〇　彼岸會法要……第四日　眞宗大谷派本願寺

△九、〇〇A　氣象通報

△九、三〇A（子供の時間）お話とうた（一）お話……神樣と子供　堀江秀雄

二）うた……神社參拜唱歌　女子放送合唱團）

△一〇、〇〇A　彼岸法話　善光寺別當大勝進貫主水尾寂曉

△一〇、四〇　講演（閻魔大王の話）京都帝大敎授醫學博士石川日出鶴丸

△一一、一〇A　講演（支那に於ける通俗信仰）宮原民平

△正午A　時報氣象

△後〇、三〇A　ニュース

△一、三〇B　彼岸會狀況　天王寺境內より中繼

△二、〇〇B　御詠歌和讃　高野山より中繼

△二、三〇A　放送舞臺劇（宿無國七時雨傘）

△三、四〇A　氣象

△四、〇〇　ニュース

△六、〇〇A（子供の時間）少年講演（護國の鐘）鶴見欣次助

△六、二五　講演（三陸津浪と水產業）東北帝國大學助敎授理學博士林喬

△七、〇〇A　ニュース　氣象　積雪量　番組豫告

△七、三〇　漫談（浮世哲學）福島馬場九如

△八、〇〇A　新內（千日寺名殘の鐘）富士松加賀太夫綱太夫

△八、三〇　浪花節（北海奇談…稻妻お玉）木村重友

△九、〇〇　掛合噺（神主とおかめ）

△九、三〇A　時報　ニュース　氣象

雛人形道具一式
特價大賣出し！
古代並に現代人形特作品豐富
陳列御客樣本位大勉强是非御來覽御用命を。
平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

ヒナ人形特價賣出し
桃のお節句が近づきました。東京一流デパート陳列の最新形木目込人形各種取揃ました。どうぞ御覽下さい他店に類のない、お伽噺の最新人形も澤山陳列して御客樣を御待致して居ります。
平町四丁目角
祐月特製品　菅野屋商店
電話一五七番

雛人形雛道具
特價賣出し……
久月特製たぼこ人形や古代風人形類を陳列致しました。どうぞ御一覽下さい御待致して居ります。
平三町目
金太郎玩具店

おひな人形陳列會
東京、埼玉各地一流人形師の作品を賑々しく陳列致しました。是非一度御覽下さい。
優秀品で値の安い
二丁目
フクダヤ際物部

新學期の裁縫用具は
ハシモトヤへ！
女學生用カバン
澤山入荷しました……。
田町
ハシモトヤ糸店
電十四番
（少年店員募集）

超尖端的御調理
安くておいしい……！
滿洲そば　壹ケ金拾五錢
滿洲うどん
日本そばに滿洲趣味を加へて日滿親善を表現したもの、味は現代的濃厚滋味は國際的に高尙優美御値段は大衆向きに頗る粹にして安價なり。
本日より發賣いたします。
御注文は電話一七一番へ迅速配達いたします。
三月十七日
さかきや
田町

產婆看護婦生徒募集
願書提出四月八日迄（可成至急）
修業年限一ケ年
平町一丁目
石城產科婦看護婦學校
校長高崎千代
電話三五七番

外科
全般
內科
小兒科
醫學博士渡部義夫
女醫渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

江戸前
當店に於て自慢の
大蒲燒
割烹
壽司
開業以來
特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお陰樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……
御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町
魚榮
電話四二四番

生徒募集
產婆。看護婦
今。入學の好時期
御希望の方は至急御申込みを
新學期は四月八日ヨリ
平南町
電話三〇七番
平產婆看護婦學校
校長清野キヨ

生花教授
池ノ坊流　生花を櫻切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

月曜論壇

新川改修と水害

惡水豫防工事が完成した新川端は正に平町の一新風景たるを失はない、即ち河川の幅員を擴張し出水の吞吐を圓滑ならしめて內郷、平、飯野一町二ヶ村に於ける萬頃の美田を冠水の災殃より完全に救濟する一大福祉を齎した一面、松ヶ岡公園のそれと相呼應し地方名だたる櫻の名所として繚爛萬朶の花影を瀲々の流心に投ずる美觀は在所に錯落參差たる廬芥によつて夥しく三春の興趣を殺がれた從來の不快より脱却し得たからである。

○

斯樣な觀點から吾人は所謂一石二鳥を收獲した當局の勞を多とするものであるが新に築かれたる長堤が長橋町附近の國道とレベルを同じうし同方部の下水溝より遙かに水準を高うすべき處から觀察し、將來出水の場合に於て或は滔々たる濁流が下水に逆流して市街地を浸す事無きや蓋し附近住民の以て深憂大患たらざるを得ぬ處である。幸にして技術的に考究して其間何等の支障無しとせば勿論問題は無いが不幸些かにても其の必然性を發見するとせばこの上に於て對策を講じ置くが吃緊事であると思ふ、敢て當局の一考を煩はさんとす

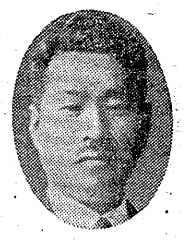
櫻花を宣傳せよ

『春は花いざ見にどんせ松ヶ岡』東山の句をそつくり其儘流用しても決して溢美で無い平町の春は今や眼前に迫つた、町では例年松ヶ岡新川端の春を浮かるる歡樂兒の吸收に就て相當宣傳を試み遠近各方面から大小團体等の招徠に就て、其の間遺憾無き期してゐるが前掲新川の改修により一段の美觀を增した今春は、より以上聲を大にして誇るべき吾等の名勝を天下に呼號し三春の平全町を擧げて一大歡樂增化せしむべく機宜の計劃あつて欲しいと思ふ而も之が爲必要なる資本は踟躕する處無く勇敢に投下すべし、大なる收獲の前には若干の宣傳費如き零細なる支出のみ、豈空景氣に道はんや。

一町四村八百町歩の美田を生かす德の泉

三十五年越し荒廢に委せた鮫川堰水利事業愈々復活

明治三十一年起工以來關係地方民の寄血たる八十萬圓の巨費を投じ乍ら初期の通水を見るに至らず延々七里二十町の水路は荊棘雜草蓊々として蒼鼠廢土に隱るる底に荒れ切つた鮫川堰の農業水利事業は先代德三郎翁の遺志を襲いだ前縣議古川傳一氏の献身的努力により今年度より十一年度迄向ふ五ヶ年の繼續事業として實に二十六萬九百六十六圓の巨費を投じ來二十八日頃起工式を擧げ來月上旬から着手する事になつた。將來之が完成して上遠野、植田、渡邊、泉、玉川一町四ヶ村の大動脈に婆々として通水の脈搏つ時關係八百町歩の美田は歡然として甦生の生氣に滿つる事であらう。（寫眞は鮫川水利實現の殊勳者古川傳一氏）



越し方を顧る

渠成つて水通ぜず

當時の計劃失敗眞相

抑々該堰は明治三十一年起工所有田地を賣拂はんとする恐怖時代を現出した爲時の星一代議士が當時の元利金四十萬圓を二十六萬圓に打切り無利子を以て年々二千八百圓宛明治八十四年昭和二十五年迄年賦償還する事の補修工事を施し始めて通水したが尙ほ利用するに至らなかつた。而も勘業銀行から借入れた二十萬圓の債務依然たるものあるので關係町村民は之れが負擔を恐れ十時から開催金庫事務取扱生かし同時に堰の再生を圖れば他に移住せんとするもの規定其他を協議午後から第一回平町會　今二十日午前

高月に健捧は冴ゆ

精鋭揃ひの磐中野球部

けふから猛練習開始

磐中野球部は今二十日午後一時から今春の猛練習を開始したが、內野は昨年と些の變化なく攻守共に試合れをした熟練の選手だけに非常な强みを見せ小井戸新主將の下に練習次第で縣內の覇を握るも容易と觀られてゐる、顏振れは

投石坂　捕杉浦　1田中
2萩野　3金成久　遊小井戸

で石坂は主投手、杉浦はリーフとして試合なれせぬ後一時から今春の猛練習をしてゐるが石坂の活躍は昨年より一段と期待され、新年より一段と期待され、昨年の陣容を固めて大勢を養成する外打撃を主として練習する筈である

平商競技部大會に參加

平商競技部では今年から縣下中等學校体育大會に參加するに決定し部員二十名は來月早々同校グラウンドに於て第三校庭を借りて猛練習を開始するが部員は左の如く近く役員の互選をなし選手を決定する筈で庭球キャッチプランを決定する事は昨年の大會に於て二等

磐城女新陣容

磐城高女では七月三十日縣下女子中等學校陸上競技並庭球大會の開催校となつてゐる爲此程準備を開始し目下長七米巾三米の砂場を造りつゝあるが來月からの練習によりそれ〳〵選手を決定する筈で庭球部員は左の如くである

（陸上部）—加藤菊枝、赤塚千代子、石島トミ、佐々木、柚木、安藤、三瓶、四家、鈴木利、木田澤田、阿部、木村治、綠川、鈴木萬、千葉、渡邊庄、小野、木村久、會川、高橋

磐城高女では七月三十日縣下女子中等學校陸上競技並庭球大會の開催校となつてゐる爲此程準備を開始し目下長七米巾三米の砂場を造りつゝあるが來月からの練習によりそれ〳〵選手を決定する筈で庭球部員は左の如くである

（陸上部）—加藤菊枝、赤塚千代子、石島トミ、戸來綾子、渡邊コハ、前田シメヨ、佐川レン、熊安子、坪長道子、湯佐ジエ、吉田チエ子、柏原和子、田村タキ

尙競技部は昨年の成績が良好でなかつたので猛練習を行ひ頑張る事となつた、部員は次の如くである

（陸上部）—加藤菊枝、赤塚千代子、石島トミ、

水利權取消しで獨往の立場に還る

保證金不納が解決の轉機

その後大正十三年以來取消流に認め堰は入遠野川の支流より取水する事と電力より十三萬圓を受くると云ふ縣の案が昭和五年の縣會

林田氏の發電計劃

純朴な農村を害ふ

灌漑民を狼狽させた河野英良氏の辣腕

大正八年疏水上流の落差を四分の一を拂ひ込んだ處大利用せんとする發電計劃は正九年早くも會社の機能が林田亀太郎氏によつて行はれ廢渠の水路復活を條件に縣が之を受理したので此所に發電用水利使用權を得たで會社を繼承し三回に亙つ所謂鮫川電氣は三百萬圓の株金を灌漑民に投資せしむべく目論見その六割を地方民に引受けせしめやうとしたに對し安積疏水と郡山電產倒產續出するの悲劇が起る氣の卑近な利益關係を知るつた附近農民は喜んで之に應じ

平町で繰上げ種痘

浪江の發生に怖氣立つ

平町では各地に天然痘が流行するので今年六月に行つて種痘を繰上げ二十三日から二日間左記の通り執行す

△二十三日—一、二丁目
『磐中八國記』
記事樞湊に付休載

氣の毒な一家に軍事救護を申請

けふ町役場から縣へ

平町白銀町一四小野寺せの仕事で生活して居るが最近の中心たる長男建具見習職す持病の神經痛が嵩じて働け交平(三)が昨年末第七十四持病を賣り食ひして居るので今二十日役場から縣へ上南町料理店前で之亦一番機嫌の掻槌小路武田定雄(三九)と喧嘩を始め人が入つて伸直りしたが及川は自宅から木刀を持出し背後から毆り付け相手の左腕を骨折した外全身數ヶ所に傷けて昏倒させた被害者は目下增田醫院で加療中

南町の喧嘩

一方腕を折らる

平町南町及川目照(二七)は一昨十八日午後六時頃飲酒の上南町料理店前で之亦一番機嫌の掻槌小路武田定雄(三九)と喧嘩を始め人が入つて伸直りしたが及川は自宅から木刀を持出し背後から毆り付け相手の左腕を骨折した外全身數ヶ所に傷けて昏倒させた被害者は目下增田醫院で加療中

大きくなつたら何に

園兒からいたいけな志望調べ

平町日本基督教會の清風幼稚園では今春卒業の園兒二十六名に對し將來の志望調査を行つたが男兒は軍人女兒は先生が約半數を占め奇拔なのには母ちやん、音樂家等があつた

△男兒—飛行家三、軍人四、建築家一、醫者二、米屋一、教員三、巡査一
△女兒—母ちやん三、先生五、呉服屋一、音樂家二

春蠶掃立減

平蠶業取締所では來月二十日までに今春蠶の掃立豫想を縣に報告すべし各指導員により調査を進めてゐるが蠶戶數は五千八百四十四戶で不況の關係から六年度に比較して三百八十六戶の減を示してゐるが目黑所長は米國の影況で不利だが安ければ安いで掃立を多くするから昨年と大体同樣であらう、桑園も今度の改植で相當減つたが六年度改植したのもあり、大した增減はないと語つてゐた

佑賢卒業生

磐城佑賢學舍卒業式は既報の如く昨十九日擧行したが卒業生氏名次の通し

本科—大泉長雄、小野善彌、菊地薫、鯨岡正二、後藤功、佐藤忠望、杉浦祐嚴、高原井郷、竹村忠男、長谷川貞次、綠川三男、安秀三、吉田金次、小菅ミヨ、志賀嘉代、吉田ナカ、高木ノク

中等科—赤星實、今川元一、樫村忠雄、片寄壽春、金成新一、川角富雄、北郷次男、木村庄司、金昌植、草野幸雄、久保木巖、西條貞義、佐藤藤王、佐藤正己、佐藤美也司、志賀忠德、島村忠雄、菅本代

內郷軍優勝

昨日入山の擊劍會

湯本、內郷、好間、磐崎四ヶ町村の優勝旗爭奪劍道大會は昨十九日午前十時から入山炭鑛演武場で開き內郷村が優勝した

。。。